

まちの話 題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。
連絡先 市まちづくり推進室 ☎43・8113



福津の仕事人から学ぶ

市内の中学校で仕事体験の授業



▲照明器具などの設置工事で用いる配線の仕組みを学ぶ生徒たち

市商工会青年部では毎年、市内の中学校で「福津の仕事人」の授業を行っています。

この授業は、子どもたちに仕事のやりがいや楽しさ、市内の商工業などの魅力を伝えることを目的としています。子どもたちが仕事体験を通じて、将来について考えるきっかけを作ることも目的の一つです。講師は市内の若手事業者である青年部員が務めています。

7月1日には福岡東中学校の2年生に向けた授業がありました。これは9月に行われる職場体験の事前学習も兼ねています。生徒は講師の皆さんから仕事に対する心構えなどの説明を受けた後、建設業や理容業などの仕事を体験しました。生徒たちは講師のサポートを受けながら、一生懸命に取り組んでいました。ロボットのプログラミングの講師をした足立憲正さんは「生徒自らが考えて仕事に向き合うことで、自主性が育まれていく機会になれば」と話してくれました。

みんなの力で海をきれいに

ラブアースクリーンアップ2019 inふくつ



▲多くの人が参加し、海岸がきれいになりました

ラブアースクリーンアップ2019 inふくつです。九州各県や韓国でも行われていました。

今年も市内5カ所の海岸や干潟で清掃を行いました。天気にも恵まれ、市内外の事業所や家族連れなど1482人が参加しました。5つの会場で回収されたごみの総量は、4590kgとなり、去年よりも1047kg増えていました。家族で参加した飯田結衣さんは「何度も海に来たことがあるけれど、ごみがたくさんあるのに気付いた。福津の海にはウミガメが来るので、みんなできれいにすることができてよかった」と話してくれました。

子どもたちの健康とともに

須ノ内さんが瑞宝双光章を受章



▲小学校で児童の歯科健診を行う須ノ内さん

歯科医師の須ノ内茂子さんが勲章の一つである瑞宝双光章を受章しました。昭和44年から市内の小中学校で学校歯科医として健診に携わったり、市民を対象にした歯磨き指導をしたりするなどの取り組みを続けてきました。これらの長年にわたる地域医療への貢献がたたえられました。須ノ内さんは「子どもたちの口の健康を守るために頑張ってきたことを知ってもらえうれしい。受章を今後の励みにしていきたい」と語りました。

泥だらけでも楽しい田植え

田植えの農業体験



▲泥に足を取られながら田植えに挑戦

西郷川花園横の水田で、6月16日に田植え体験がありました。市内外から集まったおよそ200人の親子が参加しました。農家の人に植え方を教わった後、家族ごとに割り当てられた区画に稲の苗を植えていきました。市内在住の武田大和くんは「初めて田植えをしたけれど、オタマジャクシがたくさんいて楽しかった」と話してくれました。

福津出身のバレー選手が県代表に

八波さんが国体メンバーに選出



▲チームとして高校総体にも出場する八波さん

10月に茨城県で行われる国民体育大会の県代表に、八波凜音さんが選出されました。八波さんは上西郷小学校と福岡東中学校の卒業生です。現在は福岡工業大学付属城東高等学校の3年生で、女子バレーボール部に所属しています。八波さんは「バレーボールは小学4年生の時に父親の勧めがきっかけで始めた。県代表として、チームに貢献できるような活躍をしたい。目標は日本一になることです」と抱負を語ってくれました。

農業とスポーツの融合を目指す

プロハンドボール選手が市内で農業研修中



▲伊藤極選手(左)と野口選手(右)

今年度からハンドボールのトップリーグに参戦した「ゴールデンウルヴス福岡」の選手が市内で農業を行っています。選手は日中に農業の練習をしています。主将で、くわの農園の研修生の野口智秀選手は「農業は同じ作業の繰り返しで根気が必要。これを試合に生かして、粘り強く戦いたい」と話してくれました。